



クリスマス、

「ゴミに気がつく人になろう」

野毛山キリストの教会牧師
野毛山幼稚園園長 奈良昌人

今年、米国MLBドジャースの大谷翔平選手がナショナル・リーグ3年連続4度目の年間最優秀選手賞(MVP)を満票で受賞しました。レギュラーシーズン、ポスト・シーズン、ワールドシリーズ、全てにおいて投打で大活躍した大谷選手は、野球ファンだけではなく多くの人々に喜びと感動を与えてくれました。この大活躍の陰には大谷選手の鍛錬、努力があることに間違いはありません。大谷選手は高校時代に「ドラフト1位 8球団」を目標とした「マンダラチャート」を作っていますが、その周りには8つの目標とするキーワードがあり、そのキーワードごとに8つの具体的な項目が記されています。野球技術の向上のためのキーワードの他に『運』『人間性』があり、『運』の周りには「あいさつ」「ゴミ拾い」「部屋そうじ」「道具を大切に使う」「審判さんへの態度」「プラス思考」「応援される人間になる」「本を読む」と書かれています。そういえば、試合中のグラウンドでゴミを拾う大谷

選手の姿がクローズアップされていたことがありましたが、ちゃんと実行していたのですね。誰も気に留めない小さなゴミ、落ちていることさえ気づかれないゴミ。しかし、大谷選手は気づき拾うのです。

昨年亡くなられた本園の教育アドバイザーの永井裕先生が以前、このゴミ拾いについて学校現場でのことを教えてくださいました。「ゴミに気づかないという問題は、教室、廊下、階段、校庭、公園など、いたるところで生じる問題です。教師は「ゴミを拾いなさい」と日々指導するのですが、「ゴミを拾いなさい」と言えば言うほど、言われなければ「気がつかない」という問題が深刻化していきます。つまり、ただゴミを拾わせるだけならば、さして苦労はしませんが、自らゴミに気づいたり、拾おうかなと迷ったり、など感じたり、拾おうかなと迷ったり、そういう『感性』を育てることは簡単にはできません。そこで、学校現場で大切にしたいことは「大谷選手のようにゴミを拾いなさい」ではなく、「大谷選手のようにゴミに気がつく人になろう」という指導を大切にしていきましよう。そして、気がついた子どもを大いにほめていきましよう。」ということでした。これは、子どもが自発的に主体的に行動することを応援していきましようということですが、言われなければ行動できないではなく、言われなくても気づいて行動する子どもたちに育つことを願います。しかし、これは永井先生が言われるように簡単に

できることではありません。胎児の時期から小学1年生までの『はじめの100か月の育ち』が深く影響します。「自分がちゃんと受け止められているか」と言うことが大切で、幼児期に「幸せ」と感じている子どもは、その後、「今」も幸せと感じることができるようになります。つまり、自己肯定感が養われるのです。ゴミと言えば、年長すら組の数人が一学期から「ハウス・クリーニング」という遊びを今も続けていて、遊びが深まってきていますが、いつもワクワクしてきてとても幸せそうです。そのワクワクに他の子どもたちも巻き込まれていつてみんな幸せそうです。私たちは、子どもたちが幸せ(Well-being)かどうかという視点をもち、子どももおとなも楽しくていようがないという幸せを味わいながら歩んでいきましよう。

もうすぐクリスマスですが、救い主の誕生を真っ先に知らされたのは世間からは罪人と蔑まれていた羊飼いたちでした。この羊飼いたちに神さまは真っ先に「救いの御手」を差し伸べてくださり、羊飼いたちは飼料の赤ちゃんイエスさまに出会い、神さまを讃美しました。羊飼いたちはまさに神さまから



メリー・クリスマス！